

竹島問題に関する調査・研究等に功績のあった 功労者に対する感謝状贈呈者一覧

* 敬称略・五十音順

区分	氏名（年齢）	功 績
証言	いぐち ともゆき 井口 知行 (71)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隠岐の島町在住。明治 38 年に島根県から竹島のアシカ猟について許可を受け、中井養三郎らと「竹島漁猟合資会社」を設立した井口龍太の子孫。 ・ 井口龍太に関する人物像やアシカ猟における役割、アシカ猟の成功を背景にした生活実態など詳細に証言。 ・ 井口龍太や久見地区の石橋松太郎による領土編入以前の竹島でのアシカ猟の実態が明らかとなり、氏が所有する位牌から井口龍太の本名が「龍太郎」であることが判明した。
証言	うの きみこ 宇野 喜美子 (83)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 西ノ島町在住。明治時代中・後期に竹島や鬱陵島で漁猟をし、島根県に竹島での潜水器漁業の許可願を提出した真野哲太郎の子孫。 ・ 潜水器漁業や海産物商で財をなした真野哲太郎の人物像に関する事、潜水夫であった父三郎や近隣住民から聞いたアワビ漁など竹島での漁猟の実態について証言。 ・ 証言は真野哲太郎の実像を明らかにし、裕福な生活実態を裏付けるものであり、竹島での経済活動を証明するうえで重要な証言であった。
証言	おおた たもつ 大田 保 (71) やまね たかのり 山根 隆徳 (89)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隠岐の島町在住。明治後期に竹島で漁猟を行った飯美地区の大田（山根）房松、山根常男の親族。 ・ 同地区から竹島へ渡航して漁猟を行った人物に関する証言のほか、アシカ猟の具体的漁法や竹島までの渡海方法、島での漁法など詳細に証言。 ・ 特に、当時目撃した竹島から持ち帰った巨大なアワビの殻やボンベ貝（ヨメガカサ）に関する証言は、竹島における漁猟の実態を把握するうえで重要な証言であった。
調査協力	かわい やすのり 河合 鎮徳 (68) しおたに すずむ 塩谷 晋 (66) ぜにもと しょうこ 銭本 笑子 (76)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥取県東伯郡琴浦町在住。 ・ 琴浦町赤碕地区での現地調査に協力し、同地区から竹島へ渡航してアシカ猟を行った人物に関する証言や鳥取県内の廻船に関する貴重な資料を提供。 ・ その結果、明治 38 年に竹島でアシカ猟を行った銭本某は、赤碕の廻船問屋が所有する帆船「蛭子丸」の船頭銭本莊八であることが判明した。 ・ 琴浦町赤碕地区の住民が竹島で組織的にアシカ猟を行っていたことが明らかとなった。
証言	にしはま かずお 西濱 一男 (88) かどわき たかこ 門脇 夕カ子 (86) かどわき あきえ 門脇 秋枝 (80)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松江市在住 ・ 終戦まで鬱陵島に居住し、帰還時に竹島を目撃したこと、鬱陵島では竹島を「らんこ」と呼び竹嶼が「竹島」と呼ばれていたことなどを証言。 ・ 特に、鬱陵島から竹島への出漁は許可された家だけができることは子供でも知るところであったという証言から、竹島での漁に島根県の許可が必要であったことは鬱陵島民に広く知られていたことが判明した。 ・ また、当時の鬱陵島に関する写真など貴重な資料を提供いただいた。
証言	よしだ みつあき 吉田 光秋 (88)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 隠岐の島町在住。竹島で漁猟を行った吉田又一郎の子孫。 ・ 竹島でのアシカ猟が盛んになる前段階にあたる明治 20 年代頃の隠岐でのアシカ猟、特に白島海岸で西村地区の住民が行った猟について証言。 ・ アシカ猟の具体的漁法、隠岐と竹島を往来した漁船の構造や航海法、西村地区でのアシカ加工等に関する内容のほか、当時のカンコ船の図面を提供。 ・ 西村地区の住民によるアシカ猟は、石橋松太郎らによる竹島でのアシカ猟に繋がるものであり、その過程を明らかにするうえで重要な証言であった。

* 年齢は 2021 年 2 月 22 日現在